

# 学校給食の民間委託、ぐり押しするな！

昨年、県内でいち早く食育推進条例を制定して注目されているというのに、学校給食の民間委託の動きが具体的に近づいてきました。5日の文教経済常任委員協議会の場での市教委の説明によると、新年度に調理部門に限った民間委託の試行をまず城北中学校でやり、その結果がよければ、平成24年度までに23施設で実施したいとしています。

文教経済常任委員協議会では、橋爪議員が、「合併後の新市の学校給食の基本方針はまだ策定されていない。食育推進条例に基づく食育推進計画もワーキングチームが素案づくりをしているという段階だ。こういうなかで一部門とはいえ民間委託を試行するというのは問題だ」とのべました。また同議員は、「調理部門を民間委託しても、市の直営時と同様のサービスを維持できません」と説明しているが、自校炊飯は維持されるのか」「給食調理員の人たちが学校経営に参加し、児童生徒とのふれあいのなかで仕事をしていくことも大切なことなのに、これは努力事項になっている。こんなことでいいのか」「これまで学校給食に関する各種会議で、市内に委託できる業者が見当たらないとしていたが、ここにきて、委託業者選定にあたっては、市内に本社があることを盛り込んだ選定方針を打ち出す。理解できないことだ」と追及しました。杉本議員も、「民間委託した場合、調理員に対する校長の指揮命令権は及ばなくなるのではないかと問題提起しました。

## 最大の問題は合意ができていないこと

今回の民間委託の動きの中で最大の問題は、関係者の合意も準備も十分できていないことです。全国で先行して民間委託をすすめている所からは「調理員が次々かわってしまい、子どもとのふれあいがなくなる」などといった問題を指摘する声がたくさん聞こえてきています。学校給食は、食育を推進するもっとも重要な場のひとつです。市教委は、「児童生

徒数401人、550人規模、調理員5人の給食施設では、年間906万円の歳出削減が見込まれる」などと言っていますが、行政改革に基づくコスト削減を最優先させることのないようにしてもらいたいものです。

## ただちに城北中学校を視察、調査

文教経済常任委員協議会のあつた翌日、日本共産党議員団は城北中学校（中野敏明校長）を訪れ、校長や現場職員などから民間委託をめぐる状況について説明を受け、意見交換をしてきました。

民間委託試行の候補校のひとつになっていたとはいえ、校長から市教委の方針を聞いた調理員さんたちはみんな涙を流したそうです。学校との関わりがそれほど深い中で仕事をしていたからなのでしょう。清潔でピカピカの給食調理室では、「民間委託には反対です。地元の食材使用が増えてきたのに、民間になれば利潤追求第一になるので逆行するのは」などの疑問と不安の声が上がっていました。

中野校長や事務主干からこれまでの動き、これからの日程などについてお聞きしましたが、業者選定ひとつとってみても4月実施は無理だとあらためて思いました。



## 心温まる会でした…出版記念会



橋爪市議が出した2冊目の随想集『春よ来い』（同時代社）の出版記念会がこのほど、吉川区のスカイトピア遊ランドで開かれました。同市議の友人や同僚議員など60数人が集い、出版を祝いました。

記念会では、国際啄木学会の近藤典彦会長が講演、「家族、ふるさとを愛する心は『一握の砂』と共通している」などと語りました。また山岸議長等が、「雪が解けると春になるという発想が大事」「読むとやさしくなれる」などとこの本の感想を交え祝いの言葉をのべました。

『春よ来い』は話題の本となっています。春陽館書店、柿村書店、党議員団控え室などにおいてあります。ぜひ手にとってみてください。

## 日本共産党上野区議員ニュース

No. 80 2007年2月11日

連絡先 杉本敏宏 524-3787 (東本町5)  
 樋口良子 544-6802 (中門前3)  
 橋爪法一 548-3628 (吉川区代石)  
 事務局長 上野公悦 530-2203 (頸城区中柳町)